

共同でのものづくりを伴う地域行事の 特質と意義に関する研究 一岐阜県郡上市八幡町における春祭りを対象として一

橋本 優華¹・佐々木 葉²

¹非会員 早稲田大学大学院 創造理工学研究科建設工学専攻
(〒169-8555 東京都新宿区大久保三丁目4-1, E-mail:yandh.0611@asagi.waseda.jp)

²正会員 博士(工学) 早稲田大学理工学術院
(〒169-8555 東京都新宿区大久保三丁目4-1, E-mail:yoh@waseda.jp)

本研究では、地域内行事の中でも特にものづくりを伴う行事の持つ特質を明らかにすることを目的とする。そのため、郡上八幡春祭り2015年度みこしコンクールにおけるみこしの制作実態とみこし制作のための組織運営という二つの観点からヒアリング調査を行った。その結果、来年に再使用できる形態のみこしを作ったり、制作を外部組織・地域に依存したりしながらもみこしを吊るという行為を継続しようという意識があること、みこし制作の活動拠点の存在やみこしづくりに関わる人間が属するコミュニティの多様性が今後のみこし制作継続に影響することを示した。

キーワード: 郡上八幡, 地域内行事・祭事, 地域自治, コミュニティ

1. はじめに

(1) 研究背景

岐阜県郡上市八幡町(以下、郡上八幡)は、城下町として発展した町であり、現在も町の骨格がその面影を残す。郡上八幡では、伝統的な建造物群が立ち並ぶ町並、生活に密着した水路や洗い場などの水利用施設を保存し次世代につなげていくための自治組織が町内単位で存在し、地域のコミュニティの核として多くの研究対象とされてきた¹⁾。また、上に挙げたような生活基盤に密着した組織とは別に、郡上踊りや郡上八幡春祭りなどの地域内行事を軸とした組織も郡上八幡のコミュニティの特質を語る上で欠かせないものである。

内山節は、「共同体の基礎理論」²⁾において、共同体は、スケールもキャラクターも異なる様々な共同体が多様に展開する際に成立するものであり、そのような共同体の特徴のひとつに自治力の高さを挙げている。そして日本では共同体の維持・管理という面において、祭りや年中行事が自治の仕組みとして機能していたと述べている。また、社会学におけるマッキーバーのコミュニティ論を皮切りに、共同性・地域性の2つをコミュニティの形成要件とするコミュニティ論のさらなる展開についても議論されている。都市における祝祭研究の中でも、我々が共同体、コミュニティと呼ぶものがどのようにし

て構成されているのかという疑問に対して、祭事を通じて、その集団行動や協力のシステムから社会との関係が解明されている³⁾。

今回研究対象とする郡上八幡春祭りは、観光客の参加も少なく地域に根ざした住民主体の祭事であり、国の重要無形民俗文化財である郡上踊り等とは異なり、住民の自発力に支えられながら、時流によってさまざまに開催形態を変化させつつも現在まで継続してきた。地域内行事という住民主体の祭事での組織運営や共同作業における仕組みが、まちにおける自治のどのような部分として機能しているのかということを明らかにすることは、まちの自治組織の多様性を把握する上でも必要であると考ええる。

(2) 研究目的

上記の背景を踏まえ、本研究では岐阜県郡上市八幡町の春祭りにて行われるみこしコンクールを対象とし、みこし制作の実態を把握するとともに、みこし制作組織の運営形態から、ものづくりを伴った地域内行事の特質を明らかにすることを目的とする。さらに、そのような行事が地域自治に対して持つ意義について示唆を得ることを期待する。

(3) 既往研究の整理と本研究の位置づけ

a) 地域行事がコミュニティに与える影響に関する研究

石川ら⁴⁾は、祭礼における各屋台の運営形態を、屋台奉納の歴史の変遷、屋台運営の手法、運営のコミュニティの特徴や変遷をヒアリング調査、悉皆調査より分析することで、地域コミュニティにおける祭りの役割を明らかにした。根岸ら⁵⁾は、文献調査より大正期と現代の地域自治・祭事運営の変遷、ヒアリング調査より町場と田舎の祭事運営の現状を明らかにし、祭りが地域自治に与えている影響を示した。藤井ら⁶⁾は、京都五山送り火の形態と運営組織の特徴をヒアリング調査より詳細に示し、さらに資材・人材・資金という三つの視点から京都五山送り火の継承の為の基礎的条件を明らかにしている。石川・根岸の研究が、行事等がコミュニティに与える影響を明示する為に祭事を運営する主体の実態調査に重きを置いた研究であるのに対して、藤井の研究は伝統行事を継承して行く為の必要条件を把握する為に祭事を構成する為の要素という観点から実態調査を行っている。

b) コミュニティの発展要因・継続要因に関する研究

山崎⁷⁾は長野県野沢温泉村の住民自治組織「野沢組」の組織形態や財政規模、管理活動、また名古屋市緑区大高町のコミュニティ活動の推移を例にとり、①住民間の信頼関係の構築②目的意識・主体性の保持③人的資源の確保・リーダー育成④財的資源の確立⑤他の住民組織とのネットワーク形成などをコミュニティ発展の基礎的条件として挙げている。内閣府の経済社会総合政策研究所コミュニティ機能再生とソーシャル・キャピタルに関する研究調査報告書⁸⁾では、地縁組織やNPO法人のコミュニティ機能再生のプロセスを多様な事例を基にしながら、コミュニティの活動が継続できる環境要因として、豊富な人的資源・活動を支える仕組み・活動拠点の有無・活動資金の存在・情報量・活動主体の能力を挙げている。

本研究は、みこしコンクールで作成されるみこしの形態や、運営組織、材料の調達場所といった観点から、現在のみこし制作における実態を把握する。祭礼等の地域行事の実態を把握し地域自治との関連性を分析するものは多くあるが、ものづくりという行為を伴った地域行事を対象とする点に特徴がある。

(4) 研究方法と資料

本研究は、みこし制作の変遷を把握する為にヒアリング調査ならびに資料調査を実施した。

ヒアリング調査に関しては、春祭りにてみこしを担ぐ21町内全てに対してインタビューを行い、各みこしの形態や運営組織など2015年度春祭りみこしコンクールの実

態を捉える。また、運営組織にも、みこしコンクールの変遷や運営主体の変化、運営資金についてなどについてインタビューを行い、現況を把握する。

表-1 ヒアリング調査概要

	調査1	調査2
対象者	春祭りにてみこしを担ぐ21団体の構成員	郡上春祭り実行委員会
方法	対面によるインタビュー形式	対面によるインタビュー形式
期間	2015/4/5～4/18 6/2～6/3	2015/7/24

資料調査に関しては、郡上八幡春祭り実行委員会の所持する会議資料、郡上市商工会が保有する写真資料、株式会社インフォメーションネットワーク郡上八幡が保有しているビデオデータよりみこしコンクール参加団体の変遷を整理した。

表2に、今回の研究において使用した資料と、資料から得られるデータを示す。資料からは、1991, 1993, 1994, 1998～2001, 2005, 2008, 2009, 2012～2015年のみこしコンクール参加団体を把握することができた。一方で、前述したコンクール不参加団体は、2005, 2012～2015年分しか把握することができなかった。

表-2 みこしに関する資料から得られるデータ

年代	出典	コンクール参加	コンクール不参加
1991	ビデオデータ	○	×
1993	ビデオデータ	○	×
1994	ビデオデータ	○	×
1995	ビデオデータ	データ欠損有	×
1998	ビデオデータ	○	×
1999	ビデオデータ	○	×
2000	写真	○	×
2001	写真	○	×
2005	写真、ビデオデータ	○	○
2008	ビデオデータ	○	×
2009	ビデオデータ	○	×
2012	会議資料、ビデオデータ	○	○
2013	会議資料	○	○
2014	会議資料	○	○
2015	会議資料	○	○

(5) 用語の整理

a) みこし

春祭りにおいて担がれるみこしは、本神輿だけでなく発泡スチロール等でキャラクターを模して制作されたものも含む。ここでは、そのようなものもまとめて平仮名でみこしと定義する。

b) 頼母子

一般的には「金銭の融通を含んだ民間の互助組織」を指す。頼母子に参加しているメンバーが毎月一定の金銭を出し合い貯蓄し、仲間内の一人が高額の買い物をする際に、頼母子で貯めた金を貸してもらおうといったやり取りが行われてきた。しかし、現在はそのような講としての意味を持つ頼母子は少なく、町内や同級生など気の合う仲間での月に一度の集まりを指すことが多い。

2. 研究対象概要

(1) 岐阜県郡上市八幡町の概要

岐阜県郡上市八幡町（以下、郡上八幡）は、2004 年に八幡町を含む郡上郡の 7 町村が合併してできた郡上市のほぼ中央に位置し、2008 年 10 月 1 日現在で、郡上八幡の人口は 15,535 人、面積 242.31 km²である。東西及び北の三方を山に囲まれ、市街地を南北に小駄良川、東西に吉田川が走り、吉田川を挟んで南側を南町、北側を北町と呼ぶ。

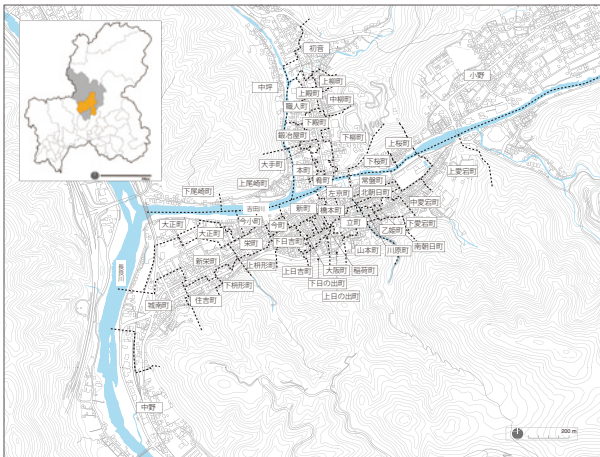


図-1 八幡町の位置と町名

(2) 春祭り並びにみこしコンクールの概要

岐阜県郡上市八幡町の春祭りは、神楽奉納とみこしコンクールとの二つの行事から成り立ち、主に旧八幡町と呼ばれる地域で 4 月の第 3 週土日に行われる。郡上八幡春祭りのために土曜日の 12 時～22 時、日曜日の 10 時～17 時の間、交通規制がかけられ、神楽・みこし共に町内を練り歩く。

神楽奉納は、日吉神社・岸劔神社・小野八幡神社の三社合同例祭であり、三社の大神楽は、いずれも県の重要無形民俗文化財に登録されている。



図-2 郡上八幡春祭り 神楽の様子

神楽と同日に行われるみこしコンクールは、その年に制作されたみこしを対象とする。土曜日に夜審査、日曜日に昼審査が行われ、二回の審査を経て各みこしの順位が決定し、入賞作品には賞金（郡上市共通商品券）が授与される。土曜日の夜審査はみこしのライトアップの美しさや、参加団体のパフォーマンス等が審査の対象であ

り日曜日の昼審査ではみこしそのものの出来映えが評価される。みこしコンクールに出場するみこしの大多数は町内からの参加であるが、有志のグループで参加する場合もあり、町外からの参加も可能である。また、みこしコンクールでは、コンクールの時間も含め土曜日の 14 時～21 時、日曜日の 10 時～17 時までは、みこしを担いで自由に町内を歩いてご祝儀を集めてよいことになっており、みこしコンクールに不参加の場合においてもみこしを吊って町内でご祝儀を集めることができる。

本研究では、そのようなコンクールに参加しない団体を「コンクール不参加団体」、みこしコンクールに参加している団体は「コンクール参加団体」とする。また、春祭りに参加せずみこしを担いでいない団体は本研究では取り扱わない。



図-3 郡上八幡春祭り みこしコンクールの様子

4. 運営組織に関する調査結果

みこしコンクールの歴史的変遷並びに、みこしコンクール運営体制について文献⁹⁾¹⁰⁾及びヒアリングから探る。

(1) みこしコンクールの歴史的変遷

郡上八幡春祭りにおける、みこしコンクールの開始時期は明らかではない。春祭りにてみこしコンクールと同時に行われる神楽奉納の開始時期は、岸劔神社については不明であるが、日吉神社の神楽とともに 1801 年に神楽奉納が行われた旨の文書が残されている。また小野八幡神社は 1667 年に祭礼が行われたと伝えられている。小野八幡神社は元々秋祭りであったが、昭和 46 年度から祭日を春祭りと同日にし、現在まで三社合同例祭が続けられている。

「郡上八幡町史 下巻」⁷⁾（昭和 36 年発刊）によると、古くから八幡の祭りでは各町内ごとに山車が作られ、明治 16～17 年ごろまで続いていた。その後、日吉神社の大神楽が秋から春へと祭日を変更したことをきっかけに山車が作られることは少なくなったものの、近年では子供神輿・大人神輿が制作され町内を回るとある。また、ヒアリングの結果より、昭和 25 年頃には、みこしコンクールという形態はとらないものの、みこしを制作し、春祭りの際にみこしを担いで町内をまわるという行為はなされていたということがわかった。

表-3 みこしに関する運営委員会へのヒアリング抜粋

	地域の神社のお祭りでいう感じで。八幡の春祭りは、元々春祭りはみこしとお神楽が
Y	出て、夜店がいっぱい並んで、のど自慢大会とか、昼間は。昔はあったんですよ、イベントっていうかね。
H	それは何年くらい前からあったんですかね？
Y	私が小学生、中学生の頃からだから、昭和二十六年頃から。
H	その頃からもうみこしのコンクール？
Y	神楽もみこしも出てたし、みこしは元々神社に奉納するものなんよね。それがコンクールになったのはいつ頃が知らないんだけど。
H	じゃあYさんがお子さんだったときにはお神輿は今みたいなキャラクターじゃなくて？
Y	キャラクターじゃなくて、本神輿というか宮神輿が中心だけど。

Y:語り手(郡上八幡春祭り実行委員会事務局局長) H:聞き手

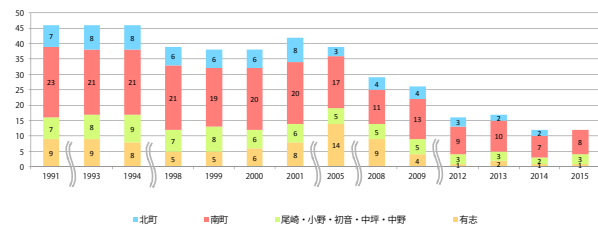


図-4 みこしコンクール参加団体変遷

図 4 に、1-(5)で示した資料を用いたみこしコンクール参加団体の変遷を示す。データの欠損等はあるものの、図 4 をみると、1991 年から 2015 年の間にみこしコンクール参加団体が四分の一ほどに減ってしまっていることがわかる。南町におけるみこしコンクール参加町内が著しく減っているためである。また、北町や、小野や中坪といった地区もみこしコンクール参加町内が半減しており、北町については 2015 年度にはコンクール参加町内はゼロになった。

(2)みこしコンクールの運営体制

みこしコンクール開始時期は定かではないが、コンクール開始当初から 2007 年までの運営組織の中心は八幡町商工会であり、商工会主催のイベントとして行われていた。その後 2004 年の郡上市合併に伴い、八幡町商工会は郡上市商工会八幡支部となり、合併を契機として、事務局組織の再編が行われ、さらに郡上市各町村の商工会が主催するイベントの見直しも図られた。その中でみこしコンクールの行われる郡上八幡春祭りは商工会が運営しない事業事業となり、春祭りの今後の継続について相談される中で、元教師である山下泰郎氏が事務局を務めることとなった。

2007 年度以降のみこしコンクールの運営体制は図 5 に示すように、商工会八幡支部の支部長のもとに実行委員会が作られ、山下氏は実行委員会の事務局長を務める。郡上八幡春祭りは、八幡支部長のもとに委員会が設立されているが、商工会事務局は関与していない。事務局は、山下氏を含め、以前商工会に勤めていた方、また祭りに

際して市から備品を借りるなどの関わりがあるため商工観光課の方の三人がボランティアで運営しており、コンクール参加者の受付や、神楽・みこしコンクール双方の道路許可証の作成、露店のとりまとめなど、実質の運営は山下氏に委ねられている。

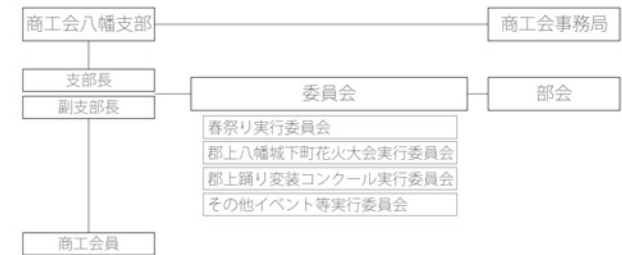


図-5 商工会八幡支部と春祭り実行委員会の関係図

春祭りの運営資金については、八幡町東部・南部・北部、小野、川合南部の 5 つの自治会(58 地区会)から一軒あたり 300 円の協賛金、また 150 ほどの企業から金額は任意で協賛金を募る。毎年大体 200 万円ほどになり、この資金がコンクールの賞金等に使われ、春祭りを運営している。コンクールの賞金は郡上市共通商品券であり、賞ごとに 15 万、10 万、7 万、5 万、3 万円となっている。

5. みこしの制作実態・組織に関する調査結果

ヒアリングにより得られた、2015 年度のみこし制作の概況並びに制作組織の運営形態について示す。

みこし制作は図 6 に示すように、複数人でガレージや公民館等、比較的広い場所で行われる。



図-6 みこし制作状況

(1)みこしの形態分類

2015 年度のみこしコンクール参加・不参加団体におけるみこしの形態を表 4 に示すように 5 つに分類した。

表-4 みこし形態のパターン

みこし形態	詳細
ねぶた型	針金や竹などで作りたい形の骨組みを組み、そこに和紙を貼付けて色をいれ、中をライトで照らしたもの
行灯型	木枠を組み、そこに和紙を貼付け中をライトで照らしたもの（置き行灯のような縦長をした箱形のものや、提灯も指す）
本神輿型	本神輿や宮神輿と言われ、一般的な神輿と同じように制作されたもの
発泡スチロール型	発泡スチロールを材料の主として作成されたもの
その他	上記した形態に当てはまらないもの

(2)みこしの制作実態と祭り後の取り扱いについて

2015 年度のみこし制作の概況を、みこしの形態・制作状況の分類・祭り終了後のみこしの取り扱いといった3点から整理し、参加団体ごとにまとめたものを表5に示す。みこしの制作については制作・継続・購入の3パターンに分け、さらに制作の度合いによって制作と改修の2タイプ、継続の場合も手直しの度合いによって補修・継続の2タイプに分類した。祭り後のみこしの取り扱いについては保管・売却・展示・破棄の4パターンに分類した。

表-5 みこしの制作実態詳細

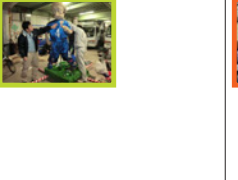
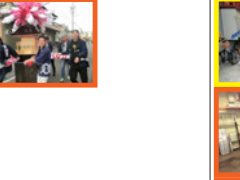
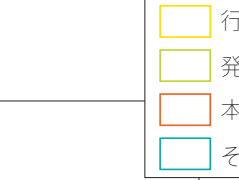
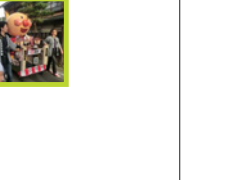
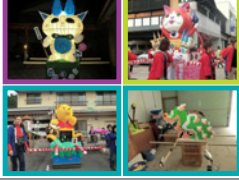
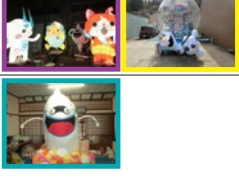
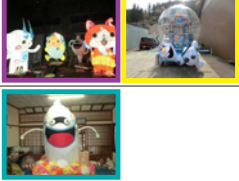
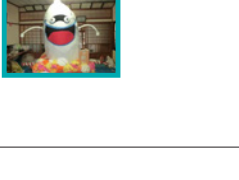
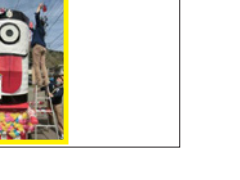
地区区分	みこし制作組織団体名	みこし形態	制作実態	詳細	祭り後の扱い
北町	福入町子供会	その他	継続		保管
	中瀬町子供会	本神輿	補修	前年に作成したものの手直し 2年前までは土曜日のみレンタル（武芸川）	保管
	本町子供会	その他	制作	毎年	売却：大和
	尾崎町子供会	その他	制作	毎年	売却：中野
	上ヶ瀬子供会	発砲スチ	制作	前年までは2～3年前に作成したものの手直し	保管
南町	向山自治会	本神輿	継続		保管
	上愛宕町有志びっこ会	発砲スチ	継続	2～3体のみこしを使い直し（白鳥町で購入）	保管
	中愛宕町子供会	ねぶた	制作	毎年	売却：白鳥
	今町・今小町・栄町子供会	発砲スチ	改修	購入品を手直し。作成する年也有2～3年	—
	新町子供会	行灯	制作	昨年までは購入品を手直し： （7～8年前のもの・岐阜産産産で購入）	保管
	新栄町子供会	ねぶた	制作	毎年	展示：大和の道の駅
	城南町子供会	行灯	制作	毎年	展示：八幡病院
	大正町子供会	行灯	継続	昨年のみこしを手直し	保管
	常盤町子供会	発砲スチ	購入 制作	購入：アンパンマン（購入先不明） 制作：アンパンマンを載せる台車 四年前までは購入（富加町）	保管
	上日吉町子供会	本神輿	継続		保管
	下日吉町子供会	行灯	制作	毎年	—
	下槇形町子供会	その他	制作	毎年	廃棄
	小野子供会	発砲スチ	制作	毎年	一体売却：大和
	中野子供会	行灯	購入	前年度の尾崎町のみこしを手直し	廃棄
	郡上八幡FC	発砲スチ	改修	手直し	保管
有志	赤谷流し有志会	本神輿	継続		保管

以上の結果をふまえて、みこし制作実態に関する概況を、制作状況・祭り後のみこし取り扱いという項目で位置づけたものを図7に示す。

図7より、ねぶた型・発砲スチロール型・行灯型の3種類において新規に制作されたみこし数はほぼ同じであり、本神輿型が補修・継続の様態をとっていることがわかる。その中でも特徴的であるのが発砲スチロール型のみこしであり、祭り後のみこしの取り扱いとして5体中4体が来年にむけて保管される。

表6に発砲スチロール型みこしを制作した団体のヒアリング内容を抜粋して示す。これより、発砲スチロール型のみこしは、来年度のみこし制作をふまえ、改修・補修等の取り扱いがしやすいことから選択されていると言える。また、みこしの購入先や売却先をみても、同じように春祭りのみこしを吊る白鳥町や大和町など郡上市内の他の町名が挙げられ、また中野子供会が前年の尾崎町子供会のみこしを購入するというような、地域間の広域ネットワークが醸成されている一方で、制作を他地区に依存することで祭りを継続させていくための制作形態が特徴のひとつとして考えられる。

図-7 2015年度みこしの制作実態・祭り後の取り扱い関係図

	制作	改修	補修	継続	購入
保管				  	
売却	 				
展示	 				
破棄					

ねぶた型

行灯型

発砲スチロール型

本神輿型

その他

ないかと考える。

表-8 みこし制作組織の運営形態

				みこしコンクール参加有無													
地区区分	みこし制作組織団体名	組織	活動拠点	1991	1993	1994	1998	1999	2000	2001	2005	2008	2009	2012	2013	2014	2015
北町	職人町子供会	町内有志	長敬寺														
	中柳町子供会	子供会(子供が生まれてから)+有志	ガレージ														
	本町子供会	子供会：小学生の親	ガレージ														
	尾崎町子供会	子供会(小学生の親)+有志	公民館														
	上ヶ洞子供会	子供会：小学生と中学生の親	公民館														
	向山自治会	子供会(小学生の親)+有志	公民館														
南町	上愛宕町有志ちびっこ会	子供会有志	駐車場														
	中愛宕町子供会	子供会：小学生の親	ガレージ														
	今町・今小町・栄町子供会	子供会：小学生の親	ガレージ														
	新町子供会	子供会(子供が生まれてから)+若手のたのもし	駐車場														
	新栄町子供会	子供会：子供が生まれてから	公民館														
	城南町子供会	子供会：小学生の親	公民館														
	大正町子供会	子供会：小学生の親	コミュニティセンター														
	常盤町子供会	子供会：子供が生まれてから	コミュニティセンター														
	上日吉町子供会	上日吉自治会	コミュニティセンター														
	下日吉町子供会	子供会(子供が生まれてから)+有志OB	公民館														
	下栴形町子供会	下栴形自治会：栴友会(たのもし)	公民館														
	小野子供会	子供会：各町内約2名(小学生の親)	小野青少年センター														
	中野子供会	子供会：小学生の親	向中野集会所														
有志	郡上八幡FC	有志団体：郡上八幡FCのコーチ陣	駐車場														
	赤谷流し有志会	下愛宕町のたのもし(二十日会)の有志	駐車場														
コンクール参加：				コンクール不参加：				みこし制作無：				不明：					

表 8 にて不明となっている項目は、コンクールには不参加であるがみこしを制作した、もしくはみこし自体制作していないかのいずれかを示す。

(5)みこし制作における活動場所

表 8 より、みこしコンクール参加の変遷を追うと、資料が有るうち全ての年度においてみこしコンクールに参加している団体は8地区あり、その内7地区は地区内に公民館やコミュニティセンターといった活動拠点がある。このことから、活動拠点の有無も例年みこしづくりを行うために必要な要素ではないかと考える。

(6)みこし制作継続への意識

みこし制作者には様々な思いがあるが、町内会単位でみこしを制作している組織の中では、自らが子どもだった際に親が作ってくれたことや祭りの楽しい思い出を子どもに継続して伝えていきたいという発言が多く見られた。

表-9 みこし制作への意識に関するヒアリング抜粋

M	大体、ここの人小さい頃から何人か、私もこの町やもんで、ちっちゃいころ大人が一生懸命なって、今大人になって子供の為に作って。
O	子供の為に。全て子供の為に。
M・O(新栄町子供会みこし制作者)	
K	だからほんとにクオリティは低いんですよ。僕ら喧嘩するぐらいにやろうかっていう話もあるんですけど、やっぱりお金が無いのと子供がいっぱいいるのが二軒しか無いんですよ。僕らがほんと子供の頃は子供もおって担いだんですよほんとに。今は担がずに、とにかく参加しよう、祭りに参加して子供達を楽しませようって、僕らが楽しかったの。とにかく祭りには参加せなあかん。
K・U(下栴形町子供会みこし制作者)	

H	そうですね、結構時間割いてやってる感じでしたもんね。
W	そうやろ？毎年毎年参加団体は減っていくよ。
H	そうですね、こういう風になんだろうな、子供会に若いうちから入って技術とか学んでいくのもどんどん無くなっていくってことですね。
W	無くなるよね、で自分らはさ片桐さんもそうやけど、自分らが子供のときにやってくれとるわけ、町内の人が。自分が子供のときに作っとるところに遊びに来て、そういうのってすごい楽しかった思い出があるもんでさ、そういうのを子供らに伝えてあげたいよね、やっぱり。
W:(中愛宕町子供会みこし制作者) H:聞き手	

また、地区によっては子どももみこし制作に携わるところもあり、大人と一緒にみこしを作ることで道具の使い方を教わったり、子ども同士で祭り当日の役割分担を考えたりと、子どもの頃からみこし制作に積極的に関わっている様子が見られる。



図-11 子どもによるみこし制作の様子

(7)みこし制作におけるキーパーソンの存在

みこしの制作においては、仕事の技能や作り手それぞれの得意なことを活かした役割分担がなされている。例

えば、電気関係の仕事をしている方がライトアップのためのみこしの配電をおこなったり、細かい工作が得意な人がみこし制作におけるリーダーになっていたりする。そのような中で、みこし制作において周囲から一目おかれるようなキーパーソンとなる人物がいる。

表-10 みこし制作の役割分担に関するヒアリング抜粋

M	うん、あの人が電球職人さん。電球職人の弟子か。もうひとり電気屋さんがおって、あの人がその弟子。電球職人や。
M:語り手(小野子供会みこし制作者)	
N	そうですね、まああの仕事柄いろいろやれる人がおいでたんで。車屋さんやったり電気屋さんやったり。
H	電気屋さんあるとあれですよ。それでだんだんできていって。
N	そうです、はいおかげさまで。ベースが出来たんで小細工で。
H	でもあの辺のランプ取り付けたりとか、常盤町ってプレートがあったり。
N	そうやね、はい。これはこれでシール屋さんがあるのよ。
H	そうなんです。なんとか屋さんで、得意なことをやってたんだですね。
N	そうそう、はい。
N:語り手(常盤町子供会みこし制作者) H:聞き手	

表-11 みこし制作のキーパーソンに関するヒアリング抜粋

W	T君はみこしにあついたらなあ。
H	そうですね。
W	T君の迫力に引いたらあかんよ。
H	いや、すごいなあと思って。全部の針金組むのもTさんがやってらして、技術者みたいな。
W	ほんとすごいんでT君は。基本的にあれやでな、よその町内の人って言ってもみんな知っとる人ばかりやからな。
W:(中愛宕町子供会みこし制作者) H:聞き手	
M	そうなんです。これ大体考えるのはみなさんでやるんですか？
H	いや、形作るのはさっきのおじさん。家具屋さん。
M	あ、Tさん。
H	うん、あの人のセンスで作る。これ作りたいっていやああの人が考える。
M	そうなんです。
H	この形作るのがあの人しかおらん。
M:(新栄町子供会みこし制作者) H:聞き手	

6. まとめ

調査の成果は以下の通りである。

- ①2015 年度みこしコンクール参加不参加団体のみこし制作実態とみこしの組織運営の二点に着目し、制作実態としては形態・制作状況・祭り後の取り扱いの三点を、組織運営については運営形態・構成人数・活動拠点・みこしコンクール参加の変遷という四点を明らかにした。
- ②制作実態を前述した三点から整理し、来年に向けて保管のしやすいみこしづくりを行うことや、制作を外部に依存するといった、みこしを吊るという行為を継続しようとするための制作形態が特徴として挙げられる。
- ③みこし制作の場合には御通帳という地域内経済循環の仕組みがあり、住民も町内で材料を買うという意識があることを把握した。
- ④みこし制作の運営形態に関して、地縁型組織とテーマ

型組織に分けられ、地縁型組織のみこし制作には、町内の様々な年代の人々が携わっていることが明らかになった。また、活動拠点の存在がみこし制作継続のための一要因になっているのではないかと考えられる。

⑤みこし制作を行っている意識として、制作者が子どもの時に楽しかった記憶を自らの子ども達にも体験させたいという発言が多く見られた。子どもの頃からみこし作りを間近で見たり、子ども達も制作に直接携わったりすることで、大人になってもみこし作りに参加する意識が醸成されている。

⑥みこしの制作においては職能や趣味を活かした役割分担がなされ、また町内における様々なキーパーソンが、ものづくりを通じて見いだされる。

以上より、みこし制作という共同でのものづくりには、コミュニティの構成員個人がキーパーソンとなる場面が生じること、他地区への対抗意識から地区内の結束意識が高まること、材料調達において地域内での経済循環を意識させることが明らかとなり、これらはコミュニティの持続性や強化に対する意義が大きいと考えられる。

参考文献と注記

- 1) 渡部一二・郭中端・堀込憲二：「水縁空間：郡上八幡からのレポート」住まいの図書館出版局, 1993
- 2) 内山節：「共同体の基礎理論」農村漁村文化協会, 2010
- 3) 竹元秀樹：「祭りと地方都市 都市コミュニティ論の再考」新曜社, 2014
- 4) 石川仁生・木下光・丸茂弘幸・長友伸介：運営形態からみた西条祭りの内発的発展の基礎的条件に関する研究, 都市計画論文集, No. 38, pp877-882, 2003
- 5) 根岸亮太・後藤春彦・田口太郎：祭事が地域運営に与える影響に関する研究-埼玉県秩父市における秩父夜祭を対象として-, 日本建築学会計画系論文集, No. 622, pp129-136, 2007
- 6) 藤井基弘・深町加津枝・森本幸裕・奥敬一：伝統行事「京都五山送り火」の形態と祭祀組織に関する研究, ランドスケープ研究 75 (5), pp587-592, 2012
- 7) 山崎丈夫：「地域コミュニティ論 地域住民自治組織とNPO, 行政の協同」自治体研究社, 2003
- 8) 内閣府経済社会総合政策研究所：コミュニティ機能再生とソーシャル・キャピタルに関する研究調査報告書, 研究会報告書, 2006. 8, <http://www.esri.go.jp/jp/prj/menu.html>, 2015/07/30 閲覧
- 9) 「郡上八幡町史 下巻」, 八幡町役場発行, 1961
- 10) 寺田敬蔵：「郡上の祭り」, 郡上史談会, 1977